

愛知県 高浜市の取り組み

1 移行のねらい

取り組みの背景

高浜市では、高齢化の進展に伴い、地域包括ケアシステムの構築に向け、「介護予防」の充実に力を注ぎ、さまざまな事業を展開してきた。

中でも、重点をおき重点的に取り組んできたのが「生涯現役のまちづくり事業」である。

この事業をはじめ、これまで培ってきた事業やサービスの実施状況から鑑み、総合事業をスタートするための地域資源は整っていると判断し、現にあるものを最大限に活用するといった視点で検討に入った。

地域の状況(高齢者データ、地域資源データ)

- 面積：13.02 km²
- 総人口：46,835人[2016/3/1]、高齢者人口：8,785人[2016/3/1]
- 高齢化率：18.76%[2016/3/1]
- 要介護認定者数（認定率）：1,477人（16.8%）[2016/1/31]
- 第6期介護保険料：5,480円
- 介護給付費（1人当たり）：2,134,920,104円/年（1,459,275円/年）[H26]
- 認知症高齢者人口（推計）：861人[H26]
- 地域包括支援センター：1箇所、うち委託：0箇所[H27]

2 総合事業への移行に向けたスケジュールと取り組みの概要

スケジュール

【～移行まで】

①庁内検討体制の構築、移行までのスケジュールの作成(26年7月)

②予防プランのチェック(26年7月～26年8月)

③地域資源の整理・確認(26年8月)

④総合事業の考え方の整理(26年9月)

⑤事業内容、料金形態等の検討(26年10月～27年3月)

⑥住民・事業者への説明等(27年1月～27年3月)

⑦関係規定の整備(27年3月)

新しい総合事業に移行
(平成27年4月)

【移行後～平成27年12月末現在】

①既存のコーディネーターや協議体を踏まえた次なる体制の検討(27年4月～)

総合事業への移行までの取り組み概要

総合事業の実施に向け、まず行ったのは、庁内体制（福祉部のみ）の構築である。

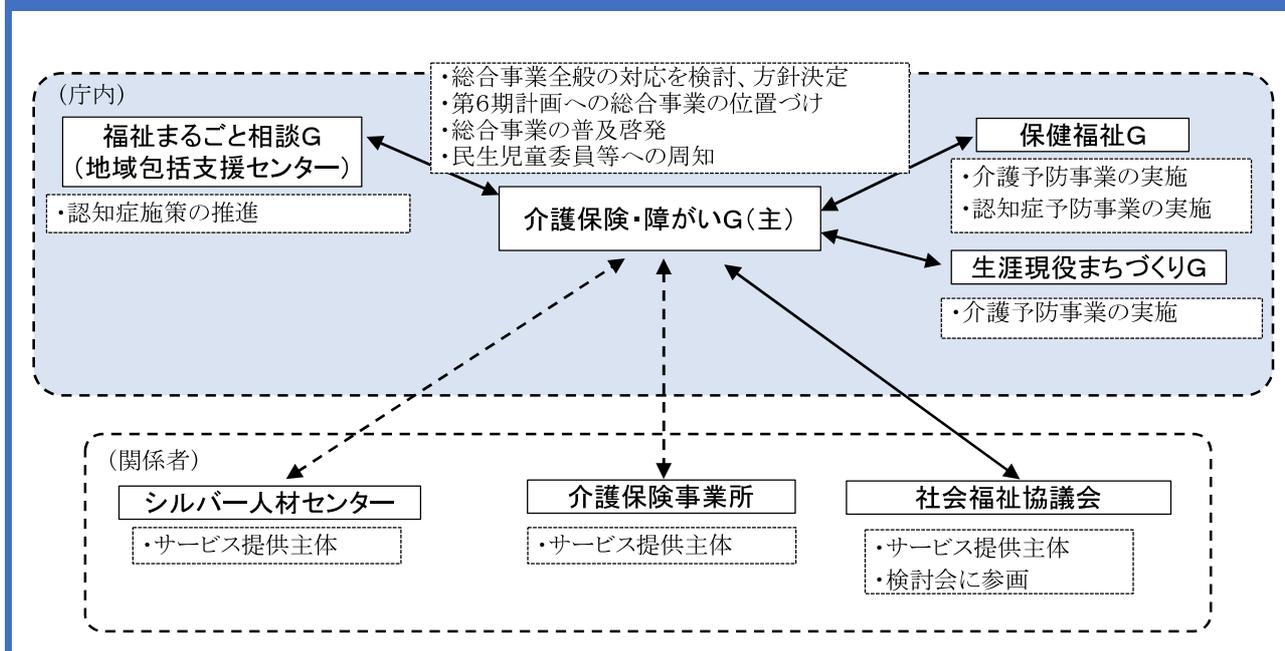
平成26年7月、介護保険・障がいグループを中心に、地域包括支援センター、保健福祉グループ、高浜市社会福祉協議会などの職員が集結し、予防プランのチェックや地域資源の整理・確認を行い、高浜市としての総合事業のあり方について整理を行った。

その結果、「介護予防・生活支援サービス事業」については、現行相当サービス、緩和した基準によるサービス、そして、これまで2次予防事業として取り組んできた事業をそれぞれ位置づけることとした。

また、「一般介護予防事業」についても同様、これまで取り組んできた介護予防拠点施設での活動、いきいき健康マイレージ事業、そして、「生涯現役のまちづくり事業」を地域介護予防活動支援事業に位置づけるとともに、介護予防把握事業、介護予防普及啓発事業、一般介護予防事業評価事業について実施することとした。

3 移行プロセスにおける主な取り組み

実施体制



主な取り組み内容等

(1) 庁内検討体制の構築

総合事業の移行に向けて、実施体制を構築した。

【発生した課題と対応策】

- ・まずは、福祉部4課10名程度によるコアメンバーでスタートした。
- ・必要時において、関係職員を会議に招集した。

【工夫した点、苦労した点、取り組みのポイント】

- ・移行時期の確定により短期間での検討が必要となったため、7月移行可能な限り毎週開催することとした。
- ・メンバーには、地域支援事業及び予防給付の現状に精通している若手職員を起用し、柔軟なアイデアや発想を求めることとした。
- ・体制に今後サービスの提供主体となりうる社会福祉協議会を加えた。

【取り組みの成果】

- ・若手職員の活用により、短期間でもって4月からの移行が実現した。

(2)住民・事業者への説明等

総合事業の制度の趣旨について、住民及び事業者に理解してもらうため、説明会等を開催した。

【発生した課題と対応策】

- ・周知期間が短かったため、制度の周知のための市民を対象とした講演会と1回目の事業者説明会を同時に開催し、時間短縮を図った。
- ・事業者への説明会では、決定していない事項も多く、混乱を招く部分もあったが、随時、問い合わせに丁寧な対応をすることで理解を求めた。

【工夫した点、苦勞した点、取り組みのポイント】

- ・総合事業の周知においては、介護保険事業計画の市民説明会の場を活用した。
- ・講演会には、厚生労働省から職員を派遣していただき、最新情報も加えた充実した内容の提供に努めた。

【取り組みの成果】

- ・H27. 1. 10 介護保険特別講演会「介護保険制度の改正でどうなる？地域における支援のあり方は？」第1回事業者説明会
- ・H27. 1 介護保険事業計画市民説明会（5箇所）
- ・H27. 3. 27 第2回事業者説明会

4 総合事業の概要

■介護予防・生活支援サービス事業

◎訪問型サービス

基準	現行の訪問介護相当	多様なサービス
種別	訪問介護	緩和した基準によるサービス
内容	訪問介護員による身体介護、生活援助	生活援助等
対象者とサービス提供の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○事業対象者、要支援1, 2 ○身体介護や生活援助に関する考え方は現行(H26まで)と同様 ○特別記載のないものについては独居を基本 ○ケアマネジメントで、以下のような訪問介護員による専門的なサービスが必要と認められるケース <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能低下、疾患に起因するもの ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業対象者、要支援1, 2 ・状態等を踏まえながら利用を促進
実施方法	事業者指定	委託
基準	国が示す基準	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者 専従1以上 ・従事者 必要数 ・訪問事業責任者 必要数 等
サービス提供者	訪問介護事業者	シルバー人材センター【委託】
費用	国が示す単価	60分程度 1,350円

◎通所型サービス

基準	現行の通所介護相当	多様なサービス		
種別	通所介護	緩和した基準によるサービス	短期集中予防サービス（高齢者筋力向上トレーニング）	短期集中予防サービス（気軽に体操教室）
内容	通所介護と同様のサービス内容	・食事、入浴などの日常生活上の支援や生活行為向上のための支援 ・運動、レクリエーション	軽運動と機械（マシン）を使用した運動メニューをプログラムに取り入れて実施	運動指導員等による筋力アップ体操などを実施
対象者とサービス提供の考え方	○事業対象者、要支援1, 2 ・ADL低下等、認知機能低下、疾患に起因するもの	○事業対象者、要支援1, 2	○事業対象者、要支援1, 2	○事業対象者、要支援1, 2
実施方法	事業者指定	事業者指定	直営	直営
基準	国が示す基準	・管理者 専従1以上 ・従事者 ～15人 等	-	-
サービス提供者	通所介護事業者	指定事業者	市	市
費用	国が示す単価	2,364 単位/月 運動器機能向上加算 225 単位/月 口腔機能向上加算 150 単位/月	無料	無料

■一般介護予防事業

介護予防把握事業	本人、家族等からの相談、民生委員など地域住民からの情報提供等を活用して、閉じこもり等の何らかの支援が必要な人を把握し、介護予防活動への参加につなげます。		
介護予防普及啓発事業	お達者教室	老人憩の家などの利用者を対象に、血圧測定、健康教育、健康相談等を実施します。	
	生きがい教室	健康相談、健康体操「みんなの体操」等を実施します。また、年1回、集団健康教育を実施します。	
	元気はつらつ教室	筋力の衰えをできる限り防ぎ、要介護状態となることなく暮らせるよう、運動指導員等による筋力アップ体操等を実施します。（NPO 法人全世代楽習塾へ委託）	
	宅老所健康相談（お元気かい）	宅老所利用者を対象に、健康相談、血圧測定、レクリエーション等を実施します。	
地域介護予防活動支援事業	介護予防拠点施設	宅老所	一緒におしゃべりや食事をしながら見守り等を行うとともに、保健師による認知症予防講座など各種健康教育や健康相談を実施します。（市内5箇所）
		ものづくり工房 あかおにどん	木工を中心としたものづくりをサポートします。
		IT工房くりっく	ITに関する利用者のニーズや操作状況等に応じたアドバイスや指導、初心者向け講座等を開催します。
		サロン赤釜	市指定有形民俗文化財「塩焼瓦窯」（通称：赤窯）をはじめ高浜市の郷土について紹介します。
		全世代楽習館	手打ちそば、茶道等の趣味的創作活動を実施します。
	生涯現役のまちづくり事業	高齢者が、市内各所にある、独自の介護予防プログラムを実践する健康自生地を回り、いきいきと活動することで、介護予防、健康増進、地域の活性化を促進します。	
いきいき健康マイレージ事業	市が認定した福祉ボランティア活動や健康づくりのチャレンジ目標を達成した場合に付与されるポイントを希望商品と交換できます。		

【1自治体1サービス自慢】～地域主体の高齢者の居場所づくり「健康自生地」～

- 高齢者の皆さんが家に閉じこもることなく、いきいきとした生活を送ることができるよう、自分から出かけたいような場所や地域の人と触れ合える場所を「健康自生地」と名付け、認定している。
- 行政に頼らない、地域住民の自主的・主体的な取り組みによる「健康自生地」が広がっており、市内に82箇所(平成28年3月1日予定)創出されている。
- プログラムもバラエティに富んでおり、体を動かす体操やウォーキング、趣味を楽しむ囲碁や社交ダンス、おしゃべりを楽しむことができる商店やお寺の一部スペースの開放、飲食を楽しむ喫茶店などがある。
- より多くの「健康自生地」を巡ってもらうためのしかけである「健康自生地スタンプラリー」では、回を追うごとに参加者が2～3倍増えている。ポイントを貯めて応募できる抽選には、企業、商店、団体から多くの協賛をいただき、当選者だけでなく、全ての方に参加賞をお渡しできたこともあり、参加者にも喜ばれている。
- 「健康自生地」に関する情報は、情報誌「でいでーる」、専用ホームページ「たかはま元気 de ねっと」、市の広報誌などで発信している。特に、「でいでーる」は、高齢者向きの紙媒体による情報発信の手段として力を入れており、できるだけ多くの地域の方に紙面に登場していただくことで、知り合いが掲載され地域で話題になったり、ちょっと笑える風刺的な川柳を表紙に掲載したりして、ただの情報発信だけでなく、読み物としても楽しい情報誌として好評を博している。
- こうした取り組みを通して、スタンプラリー目当てに市内のいろいろなところを歩くようになった方が増えたり、同じ健康自生地に定期的に通っている人同士で新たな顔見知りが増えたり、市内商店に新たな来店者が増えたりして、閉じこもり防止や生きがいづくりといった介護予防から、地域の活性化にもつながっている。
- 元気な内から地域の中で仲間づくりをしておくことで、少し足腰が弱ってきたときに仲間の中で送迎をしたり、しばらく顔を見ないときには情報を交換して様子を確認したりするなど、自然と地域の中での助け合いや見守りの輪が広がっている。

5 総合事業の充実に向けた主な取り組み(移行後～現在)

主な取り組み内容等

(1) 『たかはま版地域包括ケアシステム』の実現に向けた協議体及び生活支援コーディネーターのあり方の検討

協議体及び生活支援コーディネーターのあり方について検討するため、庁内関係職員による体制を整備し、勉強会をスタートした。

【発生した課題と対応策】

- ・地域では、多様な福祉課題やニーズが生じてきていることから、協議体及び生活支援コーディネーターについては、介護保険制度といった枠に捉われず、生活困窮者、障がい者、子どもなどさまざまな方を対象として検討することとした。

【工夫した点、苦労した点、取り組みのポイント】

- ・本市における高齢者福祉、障がい者福祉及び地域福祉に関わる日本福祉大学の教授にアドバイザーとして関わっていただいた。
- ・協議体の検討にあたっては、新たな協議体の設置に加え、既存の会議体の整理(統合・廃止など)も視野に入れた。

【取り組みの成果】

- ・『たかはま版地域包括ケアシステム』の実現に向けた、協議体及び生活支援コーディネーターのあり方について、大筋が固まった。

6 取り組みのポイント

1

○これまでの取り組みから総合事業を考える

総合事業をスタートするからと言って、総合事業のサービスだけを考えていてはダメである。それぞれの市町村には、これまで信念を持って取り組んできたさまざまな事業が必ずあるはずである。

まずは、現在実施している事業や地域資源をしっかりと把握・分析した上で、総合事業にその取り組みが活かさないか、また、活かせるとしたらどのように活かしていくかを考えることから始めることが必要だと思う。

7 今後の課題と展開方針

総合事業全体としての展開方針

本市が早期移行できたその背景には、数年前から将来を見据えて取り組んできた「生涯現役のまちづくり事業」が、総合事業の目指すべき姿にマッチングしたからである。決して、厚生労働省が示した財政優遇の特例措置を考慮したわけではない。

総合事業スタート後も、住民がこれまで主体的に作ってきた「健康自生地」を市内全域に数多く創出することに加え、この「健康自生地」を軸として、どのように活用・発展させて「まちづくり」に繋げていくのかが大きなカギとなる。

【個別の課題と展開方針】

◎「生涯現役のまちづくり」の新たなランドデザインが必要

市内全域に広がりを見せる「健康自生地」、「生涯現役のまちづくり」の今後のあり方について、次なるランドデザインを構築する必要がある。

◎地域福祉の視点も含めた協議体と生活支援コーディネーターの配置と地域福祉人材の発掘・育成

協議体及び生活支援コーディネーターは、介護の世界だけで考えるのではなく、地域福祉の視点から検討する必要がある。本市では、高齢者に限らず、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるための「たかはま版地域包括ケアシステム」の構築に挑んでいる。また、福祉人材についても同様に、介護に留まらず、幅広い視点をもつ人材育成に取り組む必要がある。